

「持続可能な観光の国際年」が意味すること

◆17年は国連が定める「持続可能な観光の国際年」、観光にも計画性と責任を

グローバル化の進展により、国境を越える観光客数は毎年5千万人ずつ増加し、2016年には12億人が海外旅行をした。一日あたりでは300万人以上にのぼる。

国連は、17年を「持続可能な観光の国際年（International Year of Sustainable Tourism for Development）」と定め、観光の役割についての認識を広めようとしている。観光のメリットとしては、国の経済を潤すだけでなく、旅先での異文化交流は相互理解を深め、多様性と平和をもたらし、自然との触れ合いを通じて資源の有効活用や気候変動などの環境に対する問題意識を高め、地球規模の課題について考える機会を得ることを挙げる。その一方、観光客の急増などの変化は、伝承文化や古代遺産の消滅、自然環境破壊などを招く原因となるため、計画性と責任のある「持続可能な観光」の普及・浸透が急がれるとしている。

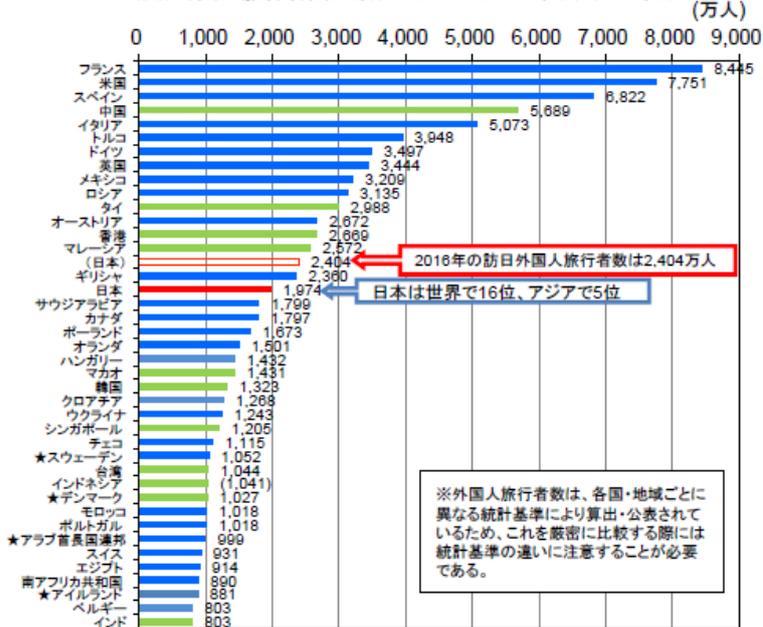
◆観光先人気はフランス、米国、スペインだが、観光客急増に住民の不満も

17年5月発表の「平成29年版観光白書について」（観光庁）によると、世界の観光先で人気なのは、1位フランス、2位米国、3位スペイン、4位中国、5位イタリアで、日本は16位（右図）。

観光客の急増による影響は、自然環境破壊だけではなく、最近では先進国や都市部で、異文化交流による相互理解どころか、地元との軋轢をもたらしている。

たとえば、ランキング3位のスペインは、人口の1.5倍近い観光客を迎え入れており、交通渋滞、騒音、マナー違反などで地元住民

(図)外国人旅行者受入数ランキング(2015年(平成27年))



資料：UNWTO(国連世界観光機関)、各国政府観光局資料に基づき日本政府観光局(NTO)作成。
 注1：本表の数字は2016年7月時点の推定値である。
 注2：*印を付した国は、2015年の数値が不明であり、スウェーデン、デンマーク、アイルランドは2014年、アラブ首長国連邦は2013年の数値を採用した。
 注3：本表で採用した数値は、日本、韓国、台湾、ベトナムを除き、原則的に100人以上の外国人訪問客数である。
 注4：外国人訪問客数は、数値が違って新たに発表されたり、さかのぼって更新されることがあるため、数値の採用時期によって、順位の数値が異なる。
 注5：外国人旅行者数は、各国・地域ごとに日本とは異なる統計基準により算出・公表されている場合があるため、これを比較する際には注意を要する。

の反発を招いている。ガウディの「サグラダファミリア」のあるバルセロナ市では、人口の20倍の観光客が押し寄せ状況は深刻だ。17年5月には「我々の日常生活を壊すのはやめてくれ!」、「グエル公園＝ツーリストの動物園」など脅迫まがいの落書きが観光名所近くに描かれるほど、住民の不満はたまっている。16年からは歴史地区での新規の商業施設の開設が禁止され、17年1月には、19年以降ホテルの新規建設も禁止する法案も通った。違法民泊施設はバルセロナ市内だけで8千件近くあると推定され、民泊向け物件の増加で一般住民の家賃が高騰するなどの問題も起こっている。

日本でもたとえば京都市では、16年に外国人宿泊客数は過去最高の318万人に達しており、外国人観光客のマナー違反や違法駐車などに悩まされている。違法民泊は5千件あると推定され、無許可施設での防災危険性も指摘される。このため、市では規制強化の検討や外国語による観光客のマナー向上啓発を強めている。

◆フランスは、旅行者啓蒙のため、環境配慮型休暇の方法を発信

観光客に求められるのは、マナーだけではない。「持続可能な観光の国際年」が、政治と産業に責任ある観光を促すだけでなく「旅行者側の意識啓発」を目指していることをふまえ、フランスでは環境エネルギー管理庁（ADEME）が、バカンス季節前の17年6月に、環境に配慮した休暇を過ごす方法を発信した。たとえば、

- 1) 頻繁に移動するより長めの滞在を。短期間に多くの場所を訪れる旅行は、移動に伴い環境汚染物質を排出する。特に航空機は温室効果ガスの排出量が多い。
- 2) 宿泊はEUエコラベル認定施設で。EUエコラベルは、再生可能エネルギー使用、省エネルギー対策、環境配慮型製品調達、廃棄物対策、従業員と利用者への環境意識啓発など、厳しい環境対策が実施されている施設であることを利用者に伝えるもの。ホテルなどの宿泊施設やキャンプ場が認定されている。
- 3) 長距離移動には鉄道がエネルギー消費も環境汚染も最も少ない移動手段。自動車移動の場合は、カーボンフットプリント削減の為、適正な走行スピードやタイヤ空気圧を維持し、荷物の積み過ぎ（100kgで5%燃料増）や混雑時間帯の移動を避ける。

と旅行者へアドバイスしている。日本でもこれから夏休みシーズンを迎えるが、「持続可能な観光」という視点で、旅行をしてみてもうかがうか。【赤山英子】